

令和7年度自己評価計画最終報告

石川県立金沢泉丘高等学校（通信制課程）

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 家庭の理解と協力を得ながら個に応じた生徒への学習支援を進め、報告課題の提出状況や出席日数の改善を図るとともに単位の修得率を上げる。	①生徒が報告課題を計画的に提出できるよう、「年間計画表」の積極的な活用をすすめる。 教職員は「学習進度表」を定期的に郵送することに併せて、学校配信メールやGoogle Classroomで「教務からのお知らせ」を発信する。	第1期締切までに報告課題を提出した生徒のうち、定期試験を受験した生徒の割合が A 75%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	【判定 C】 前期受験率 71.8% 後期受験率 65.6% (昨年度：判定B) 前期受験率 78.8% 後期受験率 71.0%	・第1期の締め切りに合格したものの、途中でレポート提出に挫折する生徒が増加した。 ・単位修得率の向上に向け、定期試験受験は必須であり、生徒がレポート提出をあきらめないよう、担任や教科担任がGoogle Classroom等を通じて、自学自習のサポート方法について考えていく必要がある。なお、来年度のレポートの第1回締め切り前にレポートに関する相談会を実施する。
	②教職員が報告課題の作成に困難を感じている生徒に向けて、平日に質問を受ける体制をつくる。また、メールやオンライン学習システム、電話を含めいろいろな形で質問に答える。	メールや電話、Google Classroomで教科や科目の質問をしたのべ生徒数が A 300人以上 B 200人以上 C 100人以上 D 100人未満	【判定 C】 質問者数 132人 質問時間 2282分 (昨年度：判定B) 質問者数 268人 質問時間 2425分	・Google Classroomの全員利用をはじめたことで前期は、Google Classroomを利用している件数が最も多かった。しかし、年間を通じて、質問者数は前年度より減少した。レポート解答時のつまずきを放置しないために、また、自学自習において学びを深めるためには質問することが効果的であることを入学後のオリエンテーションやGoogle Classroomを通じて伝えていきたい。
2 学校における日々の学習や生徒会活動などを通して、基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚、自他の生命を尊重する態度の育成を図る。	①教職員が登校指導によるあいさつ活動やショートホームルーム等、生徒と関わる場での声かけを通して、相手を尊重する態度の育成を図る。	「自分は生活規律を守っている」という質問によくあてはまると回答した生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	【判定 C】 83.6% (昨年度：判定B) 79.4%	・本年度達成基準を上げたうえでのC判定であったが、様々な場面での声かけや電話、Google Classroomでの発信により、生徒とのつながりを意識した指導の成果が表れていると考える。今まで以上に生徒一人一人とのつながりを大切にしたい指導を心がけていきたい。
	②いじめは絶対に許されない行為であることを、ホームルーム等で啓発する。また、生活体験発表の機会を活かし、他者を思いやる心や自己肯定感の育成を図り、よりよい学校づくりに努める。	「学校生活は充実している」という質問によくあてはまると回答した生徒の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	【判定 C】 47.3% (昨年度：判定D) 39.4%	・判定はCとなったが、肯定的な回答（「よくあてはまる」及び「あてはまる」）をした生徒の割合は90%を超えている。安心して学べる環境が形成され、充実感が得られていると考える。生徒自ら、学びやすい雰囲気や環境を今後も構築できるよう学業だけでなく、生徒会活動の更なる充実を図りたい。
	③「ほけんだより」等で健康に関する情報を提供し、啓発するとともに、教職員が身体計測、各種検診の受診を呼びかけて、自己の健康管理への意識を高めるようにする。	生徒の各種検診の受診率が A 60%以上 B 55%以上 C 50%以上 D 50%未満	【判定 D】 内科検診：48.4% 歯科検診：49.9% 身体計測：67.1% (昨年度：判定C) 内科検診：53.2% 歯科検診：52.0% 身体計測：69.5%	・各学年で受診率が減少したためD判定となった。学年別では1年A、2年B、3年C、4年D判定であった。学年が進むにつれて受診率が低下している。大人になるうえで、自己管理の大切さや社会に出るうえでの健康管理の大切さ等を「ほけんだより」を通じて啓発し、健診の受診を促していきたい。
学校関係者評価委員会の評価	学校生活に対する満足度が上昇している一方で、定期試験の受験率やレポート提出率が低下している現状の改善が必要。			

学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	今後も生徒会活動や学校行事への参画・参加を呼びかけるとともに、特に新入生に対し、レポート相談会の実施等、レポートのつまづきを防ぐための対策をとっていく。
--------------------------	--

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
3 生徒一人一人の生活状況を様々な方法でより把握し、教職員間で共有することにより、組織的に支援する体制をつくる。	保護者懇談会と生徒の個人面談を6月と10月に実施。学校配信メールやオンライン学習システムなどにより、面談に係る情報や、学校運営について生徒及び保護者に発信していく。	保護者懇談会の参加率が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	【判定 D】 前期 53.9% 後期 44.6% 平均 49.3% (昨年度：判定D) 前期 53.0% 後期 42.3% 平均 47.7%	・参加率は昨年度を上回ったが、半数の保護者が参加していない結果となった。一人でも多くの保護者が参加するよう、懇談会の目的や意義について周知するとともに、参加が難しい保護者に対しては、電話等により担任と関わる機会を増やしていきたい。
		生徒との面談実施率が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	【判定 C】 前期 66.1% 後期 57.5% 平均 61.8% (昨年度：判定B) 前期 69.9% 後期 61.9% 平均 65.9%	・前後期とも昨年度を下回る結果となった。自学自習を基本とする本校において、励ましたり、気持ちを奮い立たせたりする担任との関わりは学校生活を送る上で重要である。特に面談ができなかった生徒に対し、困ったことがあれば相談できるよう Google Classroomや電話を通じて、担任と生徒との関係づくりに力を入れていきたい。
4 各種業務の平準化と効率化を図り、ワーク・ライフ・バランスを実現する。	教職員が各課内での業務の平準化と協力しあえる職場環境を整え、職員のワーク・ライフ・バランスの実現を目指す。	年次休暇を10日以上取得したという教員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【判定 D】 36.8% (昨年度：判定D) 41.2%	・4月から1月末までに10日以上年休を取得した教員が7名、5日以下が8名であった。時間外勤務の報告では、月平均で15人が20時間で収まっている。個人での業務が中心となり、一部の職員に業務の偏りがある。できる限り、個人業務を課内業務や教科内業務に改善し、年休の取得率向上に努めたい。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
5 ICTを活用した連絡体制を整えるなどして、レポートの手出や学校行事への参加に対する意識を高めていく。これにより、生徒の自己肯定感を高めるとともに、卒業後の生き方を考えさせ、生徒の能力・適性を踏まえた進路指導やキャリア教育を進めていく。	①進路説明会およびロングホームルームでの就職、進学の流れの説明を通して、生徒が自分の適性・能力を活かし、卒業後の進路決定ができるよう指導する。	アンケートで、進路説明が自分の進路を考えるのに役立ったと答えた生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【判定 A】 97.1% 35名中34名が役立ったと回答 (昨年度) アンケートを実施していない。	・6月のLHにおいて、3年生を対象に進路説明を行い、多くの生徒が役立ったと回答している。来年度は、就職希望者に対する取り組みの充実にも努めていきたい。
	②生徒が自分の適性を知り、将来就きたい仕事について理解を深められるよう総合的な探究の時間などを活用して就労の意義や進路に係る情報をわかりやすく提供していく。	卒業時に進路が決定している生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【判定 C】 76.6% 卒業生145人中、進路決定者11人 (昨年度 C) 73.9% 卒業生161人中、進路決定者119人	卒業生145名のうち、進路決定者は111人（76.6%）であった。進路課主導で各学年と生徒の進路希望状況の共有をすることで、担任が生徒に対し、卒業後の進路に向けた情報提供や個別対応が適切にできるように努めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	生徒本人や保護者との関わりを深めるとともに、卒業後の進路を含め将来どのような人生を送りたいか、生徒一人一人のニーズを把握してほしい。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	生徒に対し、レポート添削やスクーリングだけでなく、生徒会活動や学校行事への参加を促すことで教員と生徒との関わりを深めていく。そのうえで、教員一人一人が個人面談や保護者懇談を通じて、生徒及び保護者の進路志望をはじめニーズを把握していく。			